

名 称	大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒739-0478 広島県廿日市市大野 1328 番地 大野公民館内
連 絡 先	TEL : 0829-20-0001                      FAX : 0829-32-5163

## 地域の現状・特色

活動対象地域の人口      広島県廿日市市大野地域    27,000人

広島県西部に位置する廿日市市は、平成17年11月、廿日市市・旧宮島町（世界遺産宮島）・旧大野町が合併し、人口11万8千人、海のめぐみ山の緑に包まれた自然の豊かさを残しながらも近代的な都市機能を備えた中核都市として発展しつつある。合併後も、各地域の持ち味を活かし、産業・観光に力を注いでいる。

大野地域では、平成14年に「子どもが輝くまちづくり」をスローガンに掲げ、官民協働で未来を担う子どもたちを育むため、大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター（以下「子ども支援センター」という。）を開所している。地域住民を巻き込みながら、合併後も官民協働で廿日市市子どもの居場所づくり事業を実施、現在は放課後子ども事業を展開中である。

## 事業の名称、活動概要

### 名称：みらい2007行事カレンダーの発行

子ども支援センターは、開所当初から、地域の大人たちが「見守り隊」となって、「子どもたちをお客様にしない」「使う前より美しく」をモットーに子どもたちの自発性が育つよう、子どもたちが考え行動する様子をじっと待ち、なるべく手出し・口出ししないよう見守り、常に本気で抱きしめ、叱ってきた。その中で、子どもたちは様々な体験活動やボランティア活動を通して自己肯定感や役立ち感を体得。その結果開所から1年半で、子どもたち自らが提案—“子どもたち自らが考え仲間と共に活動する”大野子どもクラブ「ビッグ・フィールド大野隊」が誕生した。活動そのものより活動を始めるまでの過程を大切に、失敗することも学びのうちととらえ様々な活動をしている。小学1年生から中学3年生まで約70余名が8つのクラブで活躍中。各クラブ間の連絡調整を始め、年間の活動計画や予算執行もすべて子どもたちが行う。今回のカレンダー発行は8つのクラブの中の一つである『子ども記者クラブみらい2000編集局』の子どもたちによるものである。

## 事業の実施に至る背景

平成11年全国子どもプラン・子どもセンターを旧佐伯郡（湯来町・佐伯町・宮島町・大野町・吉和村）で立ち上げ、その事務局を大野町に置き、ボランティアスタッフを中心に4町1村の教育委員会と協働で運営した。情報誌の名前は「みらい2000」で、1年ごと01、02、03・・・とカウントしていく。町村合併を期に、子ども支援センターが事業を引き継ぐ。そんな中、同子ども支援センターから誕生した大野子どもクラブ「ビッグ・フィールド大野隊」の中に、『子ども記者クラブみらい2000編集局』が誕生。それまで年3回、保護者や子どもたちに向けて遊びや学びの情報提供をしていたが、子ども記者クラブのアイデアで、年に一度、学校行事や、つっかけ履きで参加できる地域の行事を盛り込んだ行事カレンダー（5月～翌年4月）発行に切り替えた。今年で4年目となる。しかし、今年度（平成18）からまったく補助金がない中で、発行しなければならないという難問を前に、子どもたちは知恵を出し合い挑戦した。

## 事業の連携・協働のねらい

カレンダーに掲載する情報は、廿日市市大野地区の東西小・中学校の行事予定や、地域コミュニティ（大野地区11区からの提供）の子どもが参加できる身近な情報であり、この情報集めや編集・イラスト等すべて子ども記者クラブの子どもたちが行う。そして、このカレンダーづくり（プロセス）を通して、子どもたちは地域の人・物・場を知るきっかけづくりとなっている。この行事カレンダーはまさに家庭・学校・地域を結ぶ貴重なネットワークづくりの役割を果たしている。

情報提供の依頼文には、子どもたちからのお願いの手紙や企画案を加え、カレンダー発行への熱意を伝えるようにしている。今年度（平成18）から予算ゼロの中でのカレンダー発行は、個人・団体の寄付を募って、印刷製本代を捻出し発行できたことが大いなる特色である。

## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

記事づくり等ノウハウは子どもたちの中で定着してきたが、今回の募金づくりはまったく未知の領域である。そこで子ども支援センターで、各団体の会合日程やイベント情報を集約し、子どもたちに提供した。

子どもたちはその情報をもとに、部長（6年生）を中心に5・6年生は手分けして、訪問の連絡を取ることから始めた。一人ひとりメモ書きを作り、ドキドキしながら電話をした

時の思いは、計り知れない貴重な体験となっていると思う。

低学年は募金箱を作り、折り紙を貼り付けたり、イベント会場に出向く準備をした。

## ② 活動の展開内容(活動段階)

年明けの3学期は、子どもたちは毎週のように集まり、編集会議や記事集めで活動が始まる。裏表紙に掲載する特集を何にするのか。各月のイラストの担当者を割り振ったり、各学校の担当になった者は、教頭先生に新年度の行事予定表をいただきに行ったり、限られた期間での記事集めに奔走した。しかも、今年度は寄付集めという大きな壁を突破しなければ、せっかくの情報もカレンダーとして完成できない……。そこで子どもたちは会議を開き、小学1年生から6年生で5～6名ずつのチームを作り、各地区コミュニティの代表者の家を訪ねることとした。趣旨説明やカレンダーづくりにかかる思いを伝えるために、納得いただけるまで、幾度も通った。地域で人が集まる会合やイベントには必ず募金箱を携え募金のお願いをした。また、各団体へのお願いには、小学生の代表(部長)に中学生(会長・副会長・事務局長等)・高校生(卒業生:見守り隊ジュニア)が伴い、小学生では伝えきれない思いや内容について補足説明をした。

ビッグ・フィールド大野隊が集う子ども支援センターの部屋には募金の集計表が貼られ目標額達成までの道程の厳しさが伝わった。

そして、3月中旬、印刷締切日ぎりぎりに、ついに1000冊印刷製本代19万円を集めることができ「みらい2007行事カレンダー」を発行することができた。

## ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

大野地区では、子どもセンターや子ども支援センター事業を展開する中で、地域のボランティアスタッフが設立当初から運営に関わり教育委員会と協働で事業展開してきたことで、事業の目的や理念がうまく受け継がれていったことは運営上大きなメリットだったと思われる。そして大野地域では、委嘱事業や委託事業が、終了後も各事業での趣旨を踏まえながらも変化に対応してきたことで、関わる地域の大人たちに共通の子ども観が生まれたことは、事業を展開する上で確かな連携を生み出している。

一方、学校では各校が地域の願いを受け止め、子ども支援センター担当の先生を決めてくださるおかげで、活動がスムーズに継続できたと思われる。そして各事業に対して校長先生はじめ先生方が常に惜しみない協力をしてくださる様子は、地域と関わる者たちにとって学校への確かで大きな信頼へと変化した。

## 事業の成果と今後の課題

地域には、常に子どもたちに好意的な方々ばかりではなく、厳しい対応もあり、子どもたちは何度かへこたれかける姿もあったが、手を差し伸べてくださった方々や団体長の優

しさに触れ、お金の重みを学ぶとともに、貴重な経験を重ねたことと思う。昨年度まで旧大野町小・中学校4校全生徒に配布されていたカレンダーも、今年度限られた部数での配布に当たり、子どもたちは会議を開き、配布方法を検討した。その結果、低学年・高学年・中学生用にクイズを作り、カレンダーを大切に活用してくれる希望者を募って配布した。子どもたちが出来上がったカレンダーを大切に扱う姿に、多くの学びがあったと確信した。

来年度以降の発行には、より多くの団体の活動情報や、誰もが手にしたい情報を満載した更なる内容の充実が求められる。

ビッグフィールド大野隊組織図  
 (現在中学生15名小学生41名  
 卒業生は顧問として活動支援現在15名)



**全体会** 会長・副会長・庶務・会計・事務局長・次長  
 クラブ部長・副部长・学校連絡委員・地域連絡委員

**企画調整委員会** 会長・副会長・庶務・会計・事務局長・次長・クラブ部長・副部长

**連絡調整会議** 会長・副会長・庶務・会計・事務局長・次長・各クラブ部長・副部长・クラブ員

「秋だ! はじゃけろ大野day!!」  
 企画  
 子ども支援センター事業の  
 運営支援  
 様々なイベント参加協力

**食文化**

- まきまきクラブ
- 見守り隊ジュニア
- 漬け物研究クラブ
- イベント商品開発クラブ

**健康**

- おもちゃのチャチャチャクラブ
- ラブ・キヤラバン隊
- ピース・手芸クラブ
- コーラスクラブ

**環境**

- 美化ピカクラブ

**情報発信**

- 子ども記者クラブ
- みらい2000編集局
- (子どもセンター機関紙)
- がんばってます大野の子どもたち
- (大野子どもクラブ機関紙)

執筆者職・氏名：大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター  
 コーディネーター 川田 裕子

コーディネーターからの一言コメント

子どもたちのアイデアを生かし、厳しい状況も逆に子どもたちの学びにつなげる点がとても良い。子どもたちの縦の関係の在り方や学校との連携も申し分ない。地域の人が手にしたいカレンダーになることを期待したい。

(橋本 洋光)